



上陳にある霜宮神社

## 益城の文化財

# しもみや 霜宮神社

— 上陳 —

地区の人々に「大明神さん」と呼ばれる「霜宮神社」は町立津森小学校から南へ約200メートルの所にあります。

「霜宮神社」は応永元（1394）年以前に、阿蘇社のすすめで、名主的存在であった永田甚太夫が、上陳地区の早霜の害防除と五穀豊穡を祈願し、集落神として建立したと伝えられています。

祭神として、六座（阿蘇社の四宮、五宮、六宮、八宮、九宮である比咩御子明神、彦御子明神、若比咩明神、新比咩明神、新彦明神と猿田彦大神）が祭祀されています。

神社名は、天神地祇が下り給うたという意味から社名となったと考えられる「下之宮大明神」や阿蘇四宮（女の神様）を祭祀していることから「四ノ宮神社」とも言われていました。「霜宮」は、現阿蘇市役犬原の霜宮神社の分霊の意味もあって「下之宮」「霜宮」になったのではないかと考えられます。

毎年12月の第1日曜日に千度参りと大祭が行われています。「千度参り」は、以前は1月15日に行われ、素足で神社の周囲を、壁板を叩きながら廻り、また、道行く女性を招き入れて神殿で馳走を振る舞った時期もありましたが、現在は叩いて廻るだけになっています。

新年は除夜の鐘とともに参拝客も多く、地区役員がおせち料理と御神酒で迎えています。月々は老人クラブの皆さんの手で清掃やお花があげられており、上陳地区の氏神的存在として大事にされています。

参考文献「益城町史」通史編

益城町文化財保護委員会

## 俳句

早川宏次 選

喰積の草石蚕をまづは頂けり  
節分の豆煎る母のチャンチャンコ  
初競の築地のマグロ億に跳  
罅割れの頭寒からツクシンボ  
路のとう一芽残してまかりけり  
陽だまりのしげみに顔出す路のとう  
電線にまるい雀は音符かき  
日溜に春の息吹かスギナの子  
春寒や車押す手のかじかみて

広崎 松原まゆみ  
安永 川崎 節子  
惣領 阪口 基明  
惣領 小森英美子  
下陳 城 陶子  
惣領 新居 露子  
木山 増岡 伸禧  
惣領 阪口由美子  
木山 山口サツキ

## 狂句

田上富岳 選

やり繰りして 控え選手がもう居らん  
やり繰りして 借金減らしどころ  
やり繰りして 火の車から抜け出した  
やり繰りして 埋蔵金も欲しか妻  
やり繰りして 子ども三人片付かせ  
浮き沈み 気分次第の我が亭主  
浮き沈み 此の世の中はそれが常  
浮き沈み じっと見守る飯田山  
浮き沈み 涙で綴る放浪記  
浮き沈み 運がすべてを左右する

寺迫 左 喜樹  
宮園 井藤 吉郎  
惣領 小森英美子  
惣領 阪口 基明  
広崎 松原まゆみ  
宮園 永瀬 美波  
下陳 山田 凡骨  
島田 堀川 骨鶏  
木山 増岡 酔粋  
宮園 岩本よろこ

狂句次号の課題 「よしやるか」「顔しかめ」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です（当日必着）。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。